

# 月刊ウィーン GEKKAN-WIEN

現地オリジナル取材と編集で  
ウィーンを伝える月刊情報紙  
創刊 1989年 No.220  
2007年10月号

リヒテンシュタイン美術館（）  
（）にて10月29日まで展示  
10頁参照

アントン・ヒッケル（一七四五～一七九八）  
『マリー・テレーゼ・プリンセス・ドゥ・ランバル』（一七四九～一七八八年 カンヴァスに油彩  
フルステン・フォン・ウント・ツー・リヒテンシュタインのコレクション）（ヴァドゥーツ ウィーン）

66  
x  
44  
cm

Anton Hickel Porträt der Marie-Thérèse Princesse de Lamballe  
©Sammlung des Fürsten von und zu Liechtenstein, Vaduz-Wien



# ウイーン大学が輩出した巨星たち

# エルヴィン・シュレーディンガー Erwin Schrödinger

エルヴィン・シュレーーディンガー（二八八七—一九六二）は、  
商会を経営する在野の化学・生物研究家の父、ウイーン  
工科大教授の娘で世話を好きで明るい母を両親とする  
裕福な家庭に育つた。名門の王立アカデミック・シ  
ギムナジウムを全学年首席で卒業し、一九〇六年に  
ウイーン大学に入学する。全科目最優秀の成績で頭  
試験に合格し、二十二歳で博士号を取得。卒業後は、  
ウイーン大学第二物理学教室の助手を務める。第一次  
大戦が勃発した一四年から一八年までオーストリア西  
南戦線で兵役を送るが、合間にアインシュタインの一  
般相対性理論を勉強する。戦後、ウイーンに戻り、  
その後、イエナ、シュトゥットガルト、ブレスラウの各  
大学で電気学、光学、色彩論などの研究に従事した。  
二一年にチャーリヒ大学の理論物理学教授に就任し、  
て、量子力学の研究に取り組み、原子炉内の原子核反応  
を含むミクロな挙動を記述するシュレーーディンガー方  
程式を導出し、波動力学を確立した。アインシュタイン  
は「あなたの仕事のアイデアは眞の天才の証明で  
す！」と手紙の中で賞賛した。二七年にはプランク  
の後任としてベルリン大学理論物理学教授に就任し、  
三三年にはディラックとともにノーベル物理学賞を受  
賞した。同年、ナチスの台頭により、イギリスへ亡命  
した。三六年グラーツ大学教授として祖国に帰還した  
が、三八年オーストリア併合により、アイルランドの  
ダブリンへ亡命した。

量子力学は今や大学理系の常識であり、現代ハイテ  
クの基礎であるが、未解決の「解釈」問題がある。「シ  
ュレーディンガーの猫」は、箱の中に猫、放射性物質  
検出器、青酸ガス発生装置を入れたシュレーーディン  
ガーが案出した思考実験。放射性物質の放出確率が一  
時間に〇・五となると、一時間後に放射線を検出し毒  
酸ガスが発生して猫が死ぬ確率は〇・五。それまで生  
死二つの状態が重ね合わせで進行し、観測者が箱のフ  
タを開けた時になつて初めて生死が確定するという當  
然とは相容れないパラドックス。この有力な解決策が

五七年にプリンストン大学院生だったエヴァレットが提出した「多世界解釈」。観測者を含めた世界が確率に従つて無数に分岐し、分岐した世界同士が干渉せずに併存すれば矛盾はない。映画やSFのパラレル・ワールドである。学生時代に観測問題が難しくて理解出来なかつた筆者は、この説明を初めて聞いた時、妙に納得した覚えがある。

シュレーディンガーは、英、仏、スペイン、伊語を流暢に話し、ラテン語とギリシア語も堪能だつた。世界文学の大作を原語で読むのを好んだ。彫刻や絵画、古典、詩についても造形が深かつた。狭い専門領域を超えた普遍的教養を持つていた。ザルツブルク郊外のゼーハムでの実験時に知り合つたアンナマリーと一緒にウィーンで結婚式を挙げた。仲間や家族との散歩と山登りを生涯楽しんだ。戦後は、分子生物学への道を開くとともに、人間の精神世界の解明にも取り組んだ。DNAの二重らせん構造の発見でノーベル生理・医学賞を受賞したワトソンとクリックは、シュレーディンガーの著書「生命とは何か」に影響されたことを彼への手紙で述べている。

程式を導出し、波動力学を確立した。アインシュタインは「あなたの仕事のアイデアは眞の天才の証明です！」と手紙の中で賞賛した。二七年にはブランク教授の後任としてベルリン大学理論物理学教授に就任し、三年にはディラックとともにノーベル物理学賞を受賞した。同年、ナチスの台頭により、イギリスへ亡命した。三六年グラーツ大学教授として祖国に帰還したが、三八年オーストリア併合により、アイルランドのダブリンへ亡命した。

は語り得た話題で、それが（原文真参考）  
音楽と芸術の都ウェイーンには、今日の世界のエネルギーを支える原子力の基礎の発展に貢献した二十世紀の知の巨人、シュレーディンガーの面影が残されている。仕事や芸術鑑賞の合間にこれら足跡を訪ね、多世代の一分岐を彷徨つては如何。

●参考文献 『シユレー・デインガーの生涯』 D.ホフマン

■ 杉本純  
(日本原子力研究開発機構 原子力研修センター長 前ウイーン事務所長) ■



『みゅう』 毎日催行・現地発ツアー&チケット手配  
 ウィーン市内観光・ウィーンの森半日観光他(要予約)  
 『みゅう』 インフォメーション・センター  
 TEL: (01)513 9588 (日本語)  
 土日祝日を除く毎日8:30-11:00  
 (1月25日と1月1日は休業)  
 OPERNRING 4 (Elite Tours 内) 国立オペラ座横  
 MIKI TRAVEL VIENNA 月~金 (9:00-17:30)  
 TEL : (01)310 2188-18  
 myu@nikivie.at www.myushop.net

